

目次

1. 『労働社会学研究』第25号 投稿募集
2. 『労働社会学研究』第24号 公開のお知らせ
3. 日本労働社会学会 第36期 第2回幹事会(2024.3.2) 議事録
4. 日本労働社会学会 第36期 第2回研究例会(2024.3.2) 報告

★2024年度年会費納入のお願い★

★新著紹介のお願い★

★住所・メールアドレス変更通知のお願い★

(4月は異動が多い時期です。所属や住所等が変わった場合は、事務局までお知らせ下さい。)

1. 『労働社会学研究』(通称:『ジャーナル』)第25号 投稿募集

現在、『労働社会学研究』(通称:ジャーナル)第25号への投稿(論文、研究ノート)を募集しています。

会員の皆様方、実態調査に基づく論文・研究ノートをふるってお寄せください。

なお、投稿の際は「投稿規定」を十分にご確認のうえ、原稿を作成していただけますようお願いいたします。著しく形式が整っていない原稿は、差し戻すこともありますので、ご注意願います。

刊行までのスケジュールは、以下のとおりです。

- ・投稿希望書提出締切 2024年5月27日(月)(当日受信有効)
- ・原稿提出締切 2024年6月25日(火)(当日受信有効)
- ・発行予定(J-STAGE掲載) 2025年2月下旬(予定)

詳細は、学会HP→『労働社会学研究』ページ <http://www.jals.jp/journal/index.html> をご覧ください。

(連絡先)

日本労働社会学会 『労働社会学研究』編集委員会 委員長 小川 慎一

E-MAIL: ogawa-shinichi-nf@ynu.ac.jp

2. 『労働社会学研究』第24号 公開のお知らせ

『労働社会学研究』（通称：ジャーナル）第24号がJ-stageで公開されましたのでお知らせいたします。以下のURLからアクセスできます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjals/-char/ja>

3. 日本労働社会学会 第36期 第2回幹事会（2024.3.2）議事録

日時：2024年3月2日（土）13:00～15:00

方法：対面（専修大学神田キャンパス 783 教室）＋オンライン（Zoom）

参加者：清山、勝俣、岡村、宮地、戸室、上原、跡部、清水、松永、西野（以上対面）、
渡辺、近間、飯田、小川、鈴木、三家本、山根（以上オンライン）

I. 第36回大会（2024年10月or11月 同志社大学）について

1. 開催校準備状況及び開催方法

開催校の大学側の事情で日程がまだ確定できず、引き続き決定を待つこととなった。

2. シンポジウム

研究活動委員からシンポジウム案の概要について説明があり、「労働における差別や格差（及び是政策、支援）」をテーマとすることになった。詳細は4月にZOOM等で検討する予定。

II. 委員会報告・協議

1. 『年報』編集委員会

『年報』への投稿予告状況（2月29日締め切り）と今後のスケジュールの報告があった。

J-Stageの搭載に関する状況報告があり、今後の業務の流れや編集委員会と東信堂との連絡体制について確認がなされた。

書評対象文献の選定について提案され、承認された。また、書評候補作選定にかかるリスト作成作業の報酬について提案がなされ、承認された。

2. 『ジャーナル』編集委員会

『ジャーナル』24号の編集状況について報告され、了承された。24号の発行（＝J-Stage搭載）は3月下旬または4月上旬を予定。

『ジャーナル』25号の原稿募集スケジュール予定について報告された。

3. 研究活動委員会

36期の委員会内部における役割分担（大会シンポジウム、研究例会、報告記、奨励賞）

の変更について報告、了承された。

研究例会は12月2日に「学会報告を学会誌投稿につなげる」が開催され、3月2日（幹事会后）に「労働社会学会の歴史」が開催予定であることが報告された。

学会奨励賞の選考の進め方について確認がなされた。自薦の場合は献本を依頼することが了承された。

4. 関西部会

なし

5. 社会学系コンソーシアム担当

1月21日に社会学系コンソーシアムの評議委員会が開催され、役員の改選が行われたこと、3月9日にシンポジウム「なぜ、社会的孤立は問題なのか」が行われることが報告された。

6. 社会政策関連学会協議会担当

社会政策関連学会協議会シンポジウム「学術の役割を考える一学問と社会の関係を問い直すための知恵一」が2024年3月9日に開催予定であることが報告された。

7. 学会HP担当

なし

8. 会計担当

会費の納入状況及について報告された。大会関連の準備や口座開設に向けての進捗状況について報告された。

非会員の方を研究例会に招く場合の交通費・宿泊費・謝金について、大会プレシンポ・シンポジウムの際の規定と同様に支払うこととした旨報告された。

9. 代表幹事・事務局

事務局担当の小谷幸会員（選任幹事）から「日本労働社会学会役員の休業に関する内規」に、基づき休業の申し出があり、代理幹事として西野史子会員を選任することが提案され了承された。

日本学術振興会受賞候補者の推薦について依頼が来ているため、本賞に関する情報や過去の本学会の対応を確認しながら、引き続き幹事会ML等で検討していくこととなった。

代表幹事より、幹事会日程の期間の機動的な運営のため、常任幹事会（仮称）を試行的に設置する旨提案があり、了承された。メンバーは代表幹事、事務局、研究活動委員長、『年報』編集委員長、『ジャーナル』編集委員長とし、必要に応じて追加していくことと

する。

Ⅲ. 入退会者、会費減免措置の承認

新規入会1名、退会2名、会費減免申請2名について承認された。

新規入会会員の氏名・所属は以下のとおり。

辻 修嗣 氏（生田病院リハビリテーション科）

4. 日本労働社会学会 第36期第2回研究例会（2024.3.2）報告

報告者名：松永伸太郎（長野大学）・永田大輔（明星大学・非会員）

報告タイトル：労働者の共同性と労働社会学の共同性：河西宏祐の取り組みを中心に

報告要旨：

本報告は、日本労働社会学会の設立に深く関わった社会学者である河西宏祐の学説・理論的貢献を論じた拙著『労働社会学者・河西宏祐と労働者の共同性：「生活者としての労働者」の理論』（東信堂、2024年2月28日刊行）に基づき、河西の取り組みを振り返ることによって、今日の日本労働社会学会における課題と可能性を論じた。河西宏祐は、「日本的経営賛美論」への批判的立場に基づきつつ、産業社会学との距離感を意識しながら質的調査に基づいて労働者文化を捉える学として労働社会学を定式化しようとした。こうした問題意識のもとに河西自身は主に少数派労働組合を対象とした研究を行い、「当事者の論理」の把握を通して労働者意識を理解し、労働組合の組織化の可能性を探ろうとした。河西の研究は労働者を生活者として捉えることによって労働をめぐる秩序を変容させる可能性を探る学としての労働社会学の方向性を示していた。こうした方向性は労働者や労働者組織の個人化が進む現代的状況においていっそう重要性を高めていると考えられることについて論じた。

研究例会においては、報告に対してさまざまな質問とコメントをいただいた。その内容は多岐にわたるが、おおまかには①組織的な労働調査、②労働社会学という学問分野の捉え方、③共同性という概念というトピックについて展開されたと認識している。

①組織的な調査については、日本労働社会学会において複数の研究者が協働するような調査を行うことが可能かと報告者が問題提起したことに関する議論である。この点について、フロアから実際にかつていくつかの産業部門を設定してグループを作って集団調査を行おうとした試みが実際にあったが、当時他の企業調査や地域調査などに参加していた学会員も多かったために、あまり研究者の労力を集めることができなかったという経緯が語られた。

②労働社会学という学問の捉え方については、労働研究が学際的な分野であるなかであえて労働社会学という表現を用いることは領域を狭く捉えてしまうのではないかという懸

念が指摘された。これに対して報告者は、学問の名称についてはその内容面に加えて、労働に関する社会学研究を行う者の育成やポスト作りをどうするかという課題がかかわっていることを述べた。内容としては、現在の労働社会学会の英語名称ではlabor sociologyが用いられているが、sociology of workとした方がいわゆる賃労働以外の現象も扱う社会学としてむしろ広い領域として捉えられるのではないかと述べた。さらにそのことと関連して、大学のなかに労働を扱う社会学者のポストを作っていく際には、家族・教育・地域をはじめとした労働に関連する社会学と議論できる基盤作りを進めることにより、他の社会科学における労働研究のポストとは異なり、社会学のなかの他領域において労働社会学者がポストを獲得できるような取り組みが必要であることも指摘した。

③共同性の概念については、共同体・連帯・帰属意識・メンバーシップなどの類似した概念との異同等が議論になった。報告者としては、共同性が具体的な集団などに限られず、人々がまとまっている性質を持つことを広く捉えることができることに認識的な利得を認識しているという形で応答した。フロアからプロゲーマーの事例のなかで、プロとアマチュアのつながりが共同性として捉えられるかもしれないという知見も紹介された。

今後の展開としては、労働社会学会におけるベテランの先生方にオーラルヒストリーの形で学問分野の成立や展開についてのさまざまな記述を残していくことが重要であると考えている。さらに、主に文化研究との関連に照準を置いて、広がりをもった労働社会学研究を理論的研究と経験的研究を両立させながら展開していき、河西宏祐の研究から得たものを具体的な実践に移していきたいと考えている。

★2024 年度年会費納入のお願い★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】 口座番号： 00150-1-85076 加入者名： 日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員：6,000 円 一般会員：10,000 円

会費減免制度については、下記 URL をご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

お問い合わせ先：ワールドミーティング

(株)ワールドミーティング (日本労働社会学会事務代行)

Tel: 03-3350-0363 Fax: 03-3341-1830

E-mail: jals@world-meeting.co.jp

.....

★新著紹介のお願い★

日本労働社会学会のBlog にて会員の新著を紹介しています。

新著（共著を含む）を出版された方は事務局もしくは Web 担当にご連絡ください。

E-mail: chikara.suzuki129@gmail.com

.....

★所属や住所、メールアドレス変更連絡のお願い★

所属や住所、メールアドレスを変更した場合には、必ず事務局にご連絡ください。

E-mail: tkatsumata@isc.senshu-u.ac.jp

.....

★日本労働社会学会事務局（第36期）★

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学11号館11210研究室内

勝俣 達也 気付

E-mail: tkatsumata@isc.senshu-u.ac.jp 学会 HP: <http://www.jals.jp/>
